



## 国際第3委員会（委員長：霧生 委員44名／担当：松本常務理事）

**活動方針：**中国・韓国・台湾の特許・実用新案制度の調査研究を行い、パブコメ・知財管理・アジア戦略PJ等を介して意見発信する。調査研究成果として別冊資料を発行することで会員へフィードバックする。

- ◆ **委員44名**（留任21、新任23名）委員数は昨年度と同じ
  - ◆ **昨年度からの変更点：**①アジア戦略法改正WGとの合同開催(第3小委員会)  
②6月よりWeb形式で全体、小委員会の開催
  - ◆ **テーマ選定：**“JIPAならではの”という観点、また、“無理のない調査研究であるか”などを議論して抽出。最終的には新任の委員が合流した例年5月頃に決定。
- 
- 第1小委員会：中国権利化前 寺川小委員長(住友ベーク)
  - 第2小委員会：中国権利化後 宮原小委員長 (TOTO)
  - 第3小委員会：提言G r（新設） 霧生兼任
  - 第4小委員会：中国知財戦略、韓国、台湾（今年度は編成せず）





## 国際第3委員会 第1小委員会 寺川小委員長（18名）

◆ **テーマ名**：中国の権利化段階における諸問題（18名）

◆ **狙い**：（候補絞り込み後に確定）

◆ **内容の概略**（候補絞り込み中）

A：引用文献の変化に着目した考察（内外で相違、実案の影響）

B：中国における知財ミックス（特・意）出願戦略（まずは企業特定）

C：補足実験証拠、実験データの提出（17年前後の比較、外国対比）

D：進歩性の判断基準変更の影響（公知常識や技術常識の認定状況）

◆ **アウトプット&スケジュール**

当面4チーム(4-5名)に分かれてWG活動を行い、最終的に2テーマ程度に絞り、論説もしくはQ&A集などの形あるアウトプットを目指す





## 国際第3委員会 第2小委員会 宮原小委員長（17名）

- ◆ **テーマ名**：中国の中国権利化後における諸問題
- ◆ **狙い**：（仮：近年の判決のトレンド、トレンドに対応する判例を分析・紹介し、今、知財担当して知っておくべき判決を紹介する）

- ◆ **内容の概略**

- 1) **中国知財裁判における統計分析**

国籍 ・ 裁判地 ・ 有効性 ・ ライセンス額 ・ 時系列変化 ・ 証拠など

- 2) **中国裁判例研究（最近の典型判例）**

NPE ・ SEP ・ 仮差止 ・ 代表判例 ・ 証拠 ・ 実案 ・ 技術導入など

- ◆ **アウトプット&スケジュール**

推進方針：進捗状況に応じて

2テーマ合同で1つの論説（前段：統計、後段：判例紹介）

1テーマ集約（例：全員で統計分析、全員で特定判例の分析）

⇒ 今年度のゴールは必ず設定（一部次年度に継続する可能性もあり）





# 国際第3委員会 第3小委員会 霧生委員長 (9名)

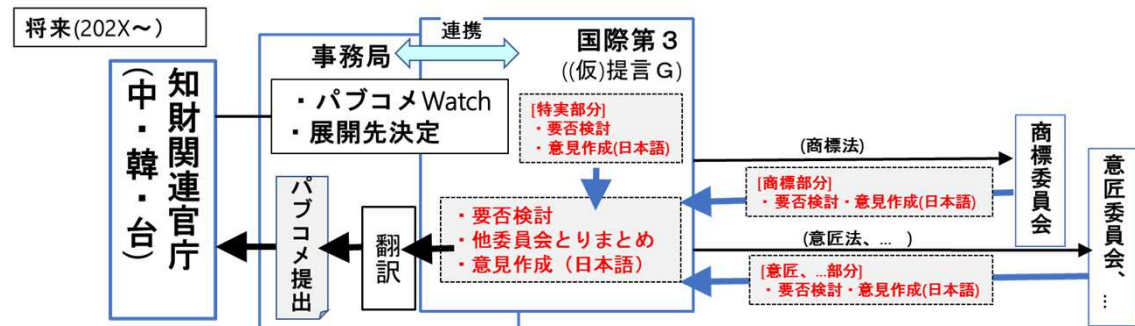
第2回アジア戦略 法改正WG活動(7月)より合流、以降原則共同開催  
 国際第3全体会、東アジア法改正WG、国際第3第3小員会(不定期)の月2-3会合



◆ **狙い**：東アジア法改正WGの発展的解消の後の、中韓台への対外活動レベルの維持と委員会スキル向上を目的とし、国際第3委員会内に提言Grを立ち上げる。

## ◆ 活動の概要

- 1)4月からのパブコメ対応
- 2)中韓台要望まとめ





## 国際第3委員会（委員長：霧生 委員44名／担当：松本常務理事）

### (1) コロナ禍における委員会の活動概要

4月、5月は活動を休止（小委員長会議のみ）

6月よりWeb全体委員会⇒Web小委員会活動の開始

7月よりWeb全体委員会(小委員会活動報告)と小委員会活動

Good：集合に比べて集まりやすくなった。短時間で回数増やせる。

Bad：新任さんの状況が判らない、コミュニケーション、息抜き、アウトプットへの不安

### (2) 現在の委員会活動で工夫している点

- ・ 議論は必ず資料を準備（話せば判ることでも）
- ・ 会議中はメンバーに指名して話をふるようにする（〇〇さんはどう思う？）
- ・ 事前にWGリーダと擦り合わせて、全体会合に臨む（脱線に歯止め）
- ・ 短時間とする（2時間以上はダメ）

